

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	日本におけるパートナーが妊娠・出産をする男性の子育て期間に現れる抑うつ <sup>o</sup> の文献レビュー
作成者（著者）	中嶋, 秀明
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2022.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 5. p.35 35.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	特別研究助成報告
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohohsj.5.35
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD42088004">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD42088004</a>

## 日本におけるパートナーが妊娠・出産をする男性の 子育て期間に現れる抑うつの文献レビュー

中嶋 秀明

### I. 緒言

少子高齢化の進む日本で子育て支援は喫緊の課題であり、様々な施策が行われている。周産期におけるメンタルヘルス支援としては、母親の産後うつへの援助として、マニュアルが作成され、活用されている。しかしながらそれらの支援の中で、父親への支援はほとんど言及されていない。一方で男性もパートナーの妊娠・出産・子育ての期間にうつ症状を呈することが海外を中心に報告されている。また、この男性の産後うつは子どもの発育・発達について重要な点であることが大規模な疫学調査から指摘され、援助の対象であることのコンセンサスが得られつつある。

そのため、日本における周産期、子育て期間中の男性への援助を考えるために、既存の研究から明らかになっていることを統合し、研究課題を明確化することを目的に文献検討を行ったのでここに報告する。

### II. 研究方法

外国語文献はPubMedを、日本語文献には医中誌Webを用いて文献検索を実施した。キーワードは1. 産後うつ、2. 父親、3. Paternal depression、4. japanを組み合わせて実施した。

### III. 結果

2020年5月1日の時点において、キーワードを用いた文献検索で、英文献56、和文献24本が検索された。その中から重複・対象に男性が含まれていない・死産に関する文献・レビュー文献・対象が日本人でないもの等を除き、ハンドサーチで20件を追加した。残った31本の論文を研究対象とした。文献の要素を抽出し比較したところ、主要な発見は以下の3点であった。

#### 1. 対象の呼称が異なる

対象の呼称が「夫」「父親」に分かれていた。

#### 2. 要因である／ないが文献によって異なる

それぞれの論文で抑うつの要因として挙げられている要素は複数あるが、例として妻／母親が抑うつであることが夫／父親が抑うつであることの要因となり得ると報告する論文と、要因ではないとする論文が混在していた。

#### 3. 地域が限定されている

調査は関東・関西に多く限定している。特に31件の論文内に愛知県内のある特定の市が2回登場していた。

### IV. 考察

対象の呼称の違いである「夫」「父親」は、それぞれPubMedのMeSH、医中誌のシソーラスにおいても別キーワードとみなされており、英知の結集が課題となっている現状が見取れた。

また、妻の抑うつの男性産後うつへの影響が、あつたりなかつたりする現状は、なんらかの要因が妻の抑うつ「に」、もしくは妻の抑うつ「から」影響を受けた結果、すなわち交絡の状態であることが示唆された。

調査の地域が偏っていることを踏まえ、日本における男性産後うつの研究課題は、研究対象の定義を明確にすること、要因の交絡が分析可能な潤沢なサンプル数を担保しつつ、複数の地域での実態調査が行われていない点であると考えられた。